

上国に向けて発送準備が整っている。CSL オーストラリアは当初米国政府と3,600万回接種分の契約を締結していたところ、これの半分以上をカットして、1,400万回接種分だけにしよう通知してきたと曝露⁹⁵⁾。

16. 今世紀最大の医薬品スキャンダル発生

元凶は誰か

一命短し 恋せよ乙女

WHO が製薬会社の圧力に屈してパンデミック宣言を出したのではないかという疑惑について欧州会議が調査を開始

2009年4月27日 WHO はインフルエンザパンデミック警戒レベル フェーズ4 声明した。以来、各国政府機関、世界的シェアを誇るワクチンメーカー各社、そして各国国民、全員が新型インフルエンザ登場の呪縛にとりつかれた。各国政府は“新型インフルエンザワクチン”の確保に走った。WHO は、一人に2回の接種が必要であるとした。製造能力に限界がある中、世界の需要に可能な限り応えるべく、WHO 予防接種に関する専門家による戦略諮問グループ (WHO's Strategic Advisory Group of Experts on Immunization) は oil in water 型アジュバント添加ワクチンと弱毒生ワクチンを使用するべきであると勧告した⁶⁷⁾。かくて、GSK をはじめとする世界の大手ワクチンメーカーは鳥インフルエンザ H5N1 の登場を想定して、モックアップワクチン^{4,96)} の製造承認を得ている製造法でアジュバント添加インフルエンザ A (H1N1) 2009 <単価ワクチン>を大量生産、世界各国に強引ともいえる手段で販売攻勢をかけた。しかし、接種が開始された直後より、カナダ、ヨーロッパ各国でアジュバント添加インフルエンザ A (H1N1) 2009 <単価ワクチン>接種による予防接種事故多発が大きな社会問題になった。現在、ヨーロッパ各国が大量の余剰ワクチンを抱えている。この原因として WHO は、一人に2回の接種が必要であるとしたが、結局1回の接種で十分であったということばかりが強調されている。しかし、たとえばドイツでは国民の5%しか接種を受けていない。それ以外の国でも接種率が極めて低い。これは、海外アジュバント添加 A (H1N1) 2009 ワクチン接種後の通常の副反

応 (局所反応、発熱など) があまりにも強烈で高頻度であること、それに加えて重篤の副反応や死亡が続出して、テレビ、新聞、インターネットで情報が速やかに全国民に行き渡ったためであると考えられる。さらにインフルエンザ A (H1N1) 2009 の感染症状が一般的には軽症で、熱が37℃台だと新型インフルの可能性が高いと言われている。海外ワクチン接種で副反応に悩まされるより、自然感染の方がましである。このようなファクターが諸外国における接種率の低下を招いていることを無視してはならない。結局、世界中で膨大なワクチンが売れ残った⁹⁷⁾。

2009年12月21日 欧州会議 (Council of Europe) 保健衛生委員会の委員長で、感染症を専門家のドイツ人医師ヴォルフガング ヴォーダルク氏が以下のような動議案を提出すべく欧州委員会の議員の必要数から賛同のサインを得た。

WHO に対する議会内部調査を開始するための緊急動議 (案)⁹⁵⁾ 2009年12月21日

虚偽のパンデミック (世界の) 保健に対する脅威 ヴォルフガング ヴォーダルク 記

製薬会社は自らの抗インフルエンザ剤とワクチンの販売を促進するために、科学者と WHO に圧力をかけ、世界中の各国政府にパンデミック宣言を発令した。その結果、各国の貴重な保健衛生のための予算を非効率的なワクチン戦略のために浪費させた。百万人単位の健康な人々を安全性有効性が十分テストされていないワクチンによる得体の知れない副反応の危険にさらした。

鳥インフルエンザキャンペーン (2005/06) は豚インフルエンザキャンペーンとセットになった。その結果、一部のワクチンを受けた人々と国家の保健省予算に被害を与えたのみならず、WHO の威信を著しく損ねた。

欧州会議とそれに属する各国は国際的レベルと国内レベルで、早急な調査とその結論を求めるべきである。

WHO によるパンデミック宣言は製薬会社の影響を決してうけるべきではないものである。

以下ヴォーダルク氏の説明を要約する。

2009年4月に数百例のインフルエンザの症例がメキシコで発生した際、殆ど科学的な根拠のないままパンデミック宣言が発令された。ただちに世界中の国々で会議が開催され、マスコミに取り上げられ、そして正規の WHO のパンデミック定義に適合するものとされた。

毎年のワクチン接種プログラムは世界の殆どの